

# BCP文書は復旧時の必須書類だ！ — 株式会社 シブヤ電機 —

## 企業概要・沿革

当社は、1972年渋谷太一氏が整流器販売での営業経験を生かして創立、メッキ用直流電源の販売により現在の基礎を作った。

その後、創立者の急死で、子息の現社長均氏が引き継ぎ、従来からの顧客との関係を維持しながら、汎用制御機器として出現したシーケンサーを表面処理装置に応用、少量多品種対応ランダム制御技術を確立した。さらに先端的な高速部分めっき装置やチタン素材めっき装置等へと応用範囲を広げ、めっき装置で独自の地位を確立、従業員19名の規模ながら海外への輸出業務や現地指導にも対応するノウハウを有する企業である。



当社 鳩山工場

## 設計、製作、設置、試験まで自社での一貫生産体制！

同社は顧客要求仕様に基づく、全体設計から部品製作、板金加工、配線工事、組立作業に至るハード製作のみならず、その制御ソフトまで自社で開発して製作の上、納入現場での据付け、試運転までも請け負うフル・ターンキー方式の受注契約で実績を積み重ね、顧客からは絶大の信頼を得て降り、近年では1件3億円を超える商談も成約している。

## 当社工場の製作現場



時代の最先端をいく当社製表面処理装置



クリーンルーム対応型めっき装置

板橋区簡易型BCP策定支援事業 事例集



無電解Ni/Auめっき装置

## BCP策定への取り組んだ理由

当社は、設備一括契約方式での受注が多く、また、その凡そ1/3は海外工場向けのため、納期の厳守が特段に要求される。このため、災害時における顧客のBCPに関する関心は高く、かねて取引先からはBCP対応の要望を受けていたので、その必要性は感じていたが、少人数のため業務に追われなかなか着手できずにいた。

2011年3月の東日本大震災では、耐震設計を考慮した工場の被災は微少ですが、あらためて従業員の安否や設備に対する防災対策の必要性を痛感した。

2015年9月、板橋区がBCP簡易モデルの企業への導入を勧めていることを知り、しかも訪問支援を実施するとのことで、この機会を利用してBCP策定を決意した。



株式会社 シブヤ電機  
代表取締役 渋谷 均氏

## 策定にあたり特に注を力した点

①当社従業員は海外を含めて顧客の工場まで出向く機会が多く、家族をも含めた安否確認、連絡方法等個人情報保護に細心の注意を払いつつ連絡体制については、重点的に検討しその仕組みづくりを行った。

②BCP発動時、経営トップが復旧判断に必要な情報の「見える化」のため文書類の一元的管理体制の具現化を目指した。

③年に1度決算処理に併せて更新することを社内ルールとして決めるとともに、特に重要な文書の変更はその都度更新することとした。

## BCP策定の感想・効果

BCPを策定して、その効果を云々するのは尚早であるが、当社は従業員19名の小世帯であり、それだけひとり一人が重い責任を担っており、自社の重要文書が1冊のファイルに収まっている事で、経営トップとして、災害時の従業員への指示が迅速にできることに大きな期待をしている。

今回のBCP策定により、自社の経営姿勢を顧客に訴求できることで、一段の信頼を得たと確信している。

## 策定されたBCP文書ファイル類



### 事業者情報

事業者名	株式会社 シブヤ電機
本社所在地	板橋区若木3-24-8
設立	昭和41（1966）年11月
資本金	1,000万円
従業員数	19名
代表者	渋谷 均
Tel	03-3969-3515
E-mail	shibuya@shibuya-denki.co.jp